

(小林氏自宅にて)

(小林さんと好古園とのご縁について教えてください。)

華道の家元の会合があったんです。流派は忘れたけどね。それで、お昼ご飯を一緒に食べてくださいと案内もらったもんやから何も思わんと行ったんです。そしたら、お花の家元とお花の先生の他、来賓は戸谷元市長と私の二人だけ。戸谷さんと同じテーブルで一緒にご飯食べたんですよ。その時に戸谷さんが、「小林さん、今度姫路城の西に公園を作るんや。そこにお茶室を作ろうと思っとるんや。」という話が出ました。そこで私がね「お茶室を作られるんやったら、予算はなんぼですか？」と尋ねた。そしたら、戸谷さんの言う金額では茶室を建てるには十分ではないと思ったからね、「それやったら止めときなはれ。茶室建てようと思ったら1坪500万円はかかります。その金額でしたら恥かくだけでんな。」と言うたんです。戸谷さんは(あ〜エライ人にエライ事言うてもたな〜)と後悔したはずですが(笑) そしたら、その晩電話がかかってきて「あない言うたけど、誰か寄付してくれる人がおれば・・・。」と言われたから、「そりやありまっせ。すぐに聞いて返事しますわ。」と言うて、ジャスコ(現:イオン)創業者の二木さんの奥さんに電話したんです。「なんぼいってんですか?」「2億か3億はいりますやろ。」「出します。」という返事やってね。

(それは凄い話ですね。戸谷元市長も喜ばれたんじゃないですか?)

そうやね。戸谷さんに電話を掛け直して、二木さんが出す言いよってや言うたら喜んでその話を横におられた奥さんにすぐしたったみたいで、奥さんがケラケラケラケラ笑って止まらへんのや。「奥さんなんで笑とってんです?」言うたらね「私長い間月給取りしてきて、2億でも3億でもポンと出しますみたいな話信じられませんか。」言うてね。そりやそうやわね(笑) 200円、300円と違うんやもんね(笑)

(本当に信じられない話ですね(笑) 茶室の名前にも二木さんは関係しているんですか?)

そう。寄付する条件として、二木さんの名前を永久に残します。と約束をしたんですわ。双樹言うたら二木という事やもんね。二木さんのご自宅に『そうじゅあん』と看板があがったんです。普通の家はそんな事はしませんけど、風流な家なんやろね。

(二木さんのご自宅の『そうじゅあん』という漢字は、好古園の『双樹庵』と同じ漢字ですか?)

そうです。同じ漢字で『双樹庵』なんや。『二木庵』やったら何にも面白い事ないでしょ。それを二木さんは字を変えて、自宅の立派な座敷に掛けられとったんです。それが頭にあって、よしそれでいこうと思っただけ。こんな事、人に言うの初めてやけど(笑)

(貴重なお話聞いてしまいましたね(笑))

二木さんの奥さんも凄い喜ばれましたよ。

戸谷元市長と昼食食べて、その夜に電話がかかってきて、すぐに二木さんに電話かけてその

日に決ってしまった。即決です。

**(すごいとんとん拍子に話が進んだんですね)**

とんとん拍子以上ですよ。それで、その翌日、今日庵（裏千家）に電話かけて鵬雲齋（裏千家15代前家元千玄室大宗匠）に「実は市役所がこういう事で、場所は国家の史跡地で、誰もどうにも出来ない場所や。お金は二木さんが2億でも3億でも出す言いよってです。だから、その一廓全部、茶の庭とお茶室を御家元お任せします、言うことならやってもらえますか？」と言うたんです。そしたら御家元がどうおっしゃったかと言うたらね「やらいでないか。（やらないわけじゃないか）」言われたので「ありがとうございます。」と言ってそれで決まりや（笑）

**(そこも即決だったんですね（笑）)**

戸谷さんはそんなことね考えもしてなかった（笑）潮音齋（好古園の庭にある建物）と同じ様な物建てようと思ってたんやろうね。それでお茶が出来るようにしようと。

**(それが本格的なお茶室になったんですね。)**

そうです。そして、現状は日本一。あれだけ庭の一木一草、三畳台目があって、四畳半、八畳、六畳、台所、水屋があるような所、ないです。そこまで裏千家に一任しました。その代り設計図は作って姫路市の方にお見せしてますけどね。その図のとおり出来てますわ。全然変更していません。茶室が天守閣の方向に向いていて、それがなぜ向いているのかという事までわざわざ書いてありますわ。お城に敬意を表していると書いてあります。当時の資料は、最初から全部残しとんや。一生の記録や思ってね。設立準備委員で裏千家家元千宗室の名前と私も載ってるから、自慢できると思って（笑）

**(建設中の茶室や茶庭を見学されましたか?)**

毎日のように見に行きました。楽しみにして。双樹庵は、釘一本も使ってないんですよ。全部組み立てですよ。京都で全部出来上がって一度組み立てて、分解して持ってきたんです。まず雨があたらないように素屋根を作って、その下で大工さんが組み立てていったんです。よく素屋根というのを、大層な建物造るときに後からやってますよね、それを始めから雨があたらないようにして、下で組み立てるんです。今日は柱が建ったな、今日は天井を張ったな、今日は屋根ふいたなと。庭をしてる人、屋根ふいてる人や壁してる人、皆にね「また来てるわ」と顔を覚えられたと思うわ（笑）

**(双樹庵で使用している『双樹の白』という抹茶は、双樹庵に関係しているんですか?)**

もちろんです。双樹庵にちなんでしてくださいと、裏千家から名前をもらったんです。茶銘の拝受の書面がちゃんと書いて来るんですよ。それで播磨の昔という名前と双樹の白という名前を頂きました。

**(双樹庵呈茶会の始まりを教えてください。)**

ボランティアで双樹庵の呈茶サービスを行うのに、姫路にある茶華道連合会に所属しているお茶の流派、裏千家淡交会・表千家・武者小路千家・御所流・藪内流・石州流、これだけの団体で相談して決めたんです。一部流派は辞めてもた。石州流はね、姫路藩のお殿様の流

派としてあったんですが、一人だけしかおらんと、どうにもならんからと辞められたん。それと藪内流はする人がないって言ってね。

**(双樹庵に俳優の西村晃さんと裏千家15代前家元千玄室大宗匠との写真がかかっていますがご存じですか?)**

それは、西村晃に好古園を宣伝するために来てもらて、写真撮ってもらて協力してもらてくれませんかと私のところに話がきたんで、私も懇意にしていたんで電話掛けてね。そしたら行きますとのことだったんで、写真撮ったのに使ってないんですよ。面白い写真がたくさんあったのね。かといって亡くなってしまってからではね。水戸黄門が流行っている時こそ西村さん良かったんやけどね。日が経ってしもて知らん人がぎょうさんおるからね。

**(副会長と裏千家15代前家元千玄室大宗匠との関係を教えてください。)**

私が22歳で鵬雲齋が24歳。戦争が済んでから。昭和22年。裏千家で国際(茶道)文化協会というのが出来て、その設立の委員の方と偶然京都でたまたま出会う機会があったんです。その方が「小林さん今から私に着いて来られたら裏千家の若旦那に紹介するで」と言われたんで着いて行ったら鵬雲齋が出てこられたんです。その時分の若い人の話題は、「戦争の時何してました?どこにいました?」で話が始まるわけや。鵬雲齋が私に、「あなた戦争中どこにいました?」と「私は舞鶴です。」と、そしたら「えー!!」と言われました。向こうも舞鶴やったんです。「舞鶴で何をしてました?」「海軍機関学校という学校にいました。」また「えー!!」とこれもびっくり仰天なわけですよ。全部で「えー!!」が5回あったんや。それで心易くなってもたんです。

昭和18年の12月に海軍に入ったのが一緒。入った所が舞鶴。将校を養成する学校に行きました。家元は学徒動員で、大学生を将校にしようという制度でした。共通点ばかりやったんです。私の学校は、厳しい学校で、私の先輩が鵬雲齋を殴り倒してるんですよ。将校になるのに、2年4カ月かかっているのに、向こうは10カ月でなれるからね。2年4カ月かかってなってる人と、学徒で途中から入ってくる人と同じ少尉になるわけですよ。ダラダラしとるってなもんですよ(笑)ネクタイの締め方が悪いとか動作や言葉がダラダラしとるかね(笑)

**(全てが気に入らないんですね(笑))**

そりゃ、当たり前や。そういうのを娑婆気(しゃばけ)が抜けとらんいうんですよ。海軍将校になったら、軍服着てるんやから軍人のはずやと。

何年の付き合いか言われたら、70年。それと(裏千家)淡交会の参事をやめるのを忘れて、50年間したんです(笑)だから、今はもうなるべく関わらないように、何かあっても行かないようにしとんです。後の人もいっぱい出てきているしね、私が顔出したら邪魔になりますからなるべく遠慮しとんです。この間の好古園25周年の時は、お釜掛けたので喜んでくれましたけどね。

**(海軍学校にいらっしやった頃のことなどを教えてください。)**

海軍機関学校、海軍兵学校舞鶴分校。兵学校というのは江田島です。エンジンの担当が機関

学校なんです。理系の出来る者を500人だったんです。兵学校は3000人だったんです。機関学校は競争率が36倍。東大より難しい。兵学校は17倍。それで、この戦争は勝っても負けてももうすぐ終わるが今の日本の現状では勉強をしている者が一人もおらん。皆、働きに行ってるでしょ？だから、私のクラスは戦争に間に合わないからとことん勉強させると、方針が変わった。1日8時間半勉強。力学工学が主です。専門は蒸気力学です。軍隊の学校なのに訓練は1時間だけ。それと大自慢だけど、実験設備、研究設備、当時日本一。モーターの実験をするにも1人1台です。普通の学校なら、10人に1台です。

それから、風洞実験といって、飛行機が飛ぶ空気の抵抗のドイツのゲッチンゲン式風洞。それが3つありました。普通の学校なら1つあるか、いや、ないぐらいやね。最高の設備やね。それで、勉強はとにかく自分で研究をしてくれと。今日、機械力学の〇〇があるというもって勉強するわけ。参考書は一人にいくらかでも、邪魔になるほどあってね。自室で研究して勉強して分からないことを教官に聞きなさい。ノートをとってはいけません。復習をしてはいけません。復習をしようと思ったら気が緩む。ノートをとったら、ノートを後から見ようと思う。それはあかんと。やってやってやって、どうしても分からない事だけを聞く。どの授業も全部。だからしんどいしんどいね。それに試験ばかりするんや。試験の時はみんな風呂敷に参考書・教科書をいっぱい持ちこむんですよ。丸暗記をする必要はない。どの本見たら書いてあるっていうのが分かっていたらそれでいいと。だから本を持って来いと。その代わり、120点の問題なんです。100点満点だったら、100点とった人がそれ以上の能力があっても発見出来ないでしょ。だから、普通は10問だしますわな。それを12問出しておくわけです。全部出来る人もいる。けれど半分以下だったら落第。退学ですよ。1割は退学した。適任と違う者が指揮官になったら船が沈むかもしれんでしょ。何百人、何千人の命がかかってる。だから、そんなふわふわした勉強と違うと。「この教室で俺が言ったこと寝て聞きそびれたら、将来どれくらいの災いがあるか分からないぞ！」とそんな事を言うわけですよ。まあ事実ですけどね。凄い教育法です。『獅子窟中に異獣なし（ししくちゅうにいじゅうなし）』と何度も何度も言うんですよ。この学校は獅子の洞穴やからキツネやタヌキやネズミがおるはずがないと。お前たちは36倍の試験をとって獅子の洞穴に入ってきたんやから全員獅子やとおだてるんです。恰好もおだてるんです。昨日まで中学校の服を着とったのが、軍服を着て外に出るといきなり敬礼してもらえます。初めパッと敬礼された時は、えっ誰かいるのかな？と振り向きまして（笑）そんな学生時代を過ごしたので、今でもとことん調べなかったら治まらん（笑）。毎日2時間半程、調べ物の本を読んでいます。その為に本を2000冊程並べています。本を読んで頭を整理するのが毎日の仕事みたいになっています。

（好古園にある茶道具にも小林さんの字で書いてある説明書きがたくさんありますよね。）

【ハワイで購入したコップを見ながら】例えばこういう物があるとしますよ。まずこれは何という物か。どこで出来たのか。この格好はいつからか。というような事が気になります。それを解決をしないと治まらんのです。どんなことでもね。今見えているものは全部結果な

んです。これもどこかで出来とるんです。これはハワイです。ハワイの湯飲みです。だから調べたら分からないことは一つもない。絶対ない。それに面白い。自分が面白いと思って調べた事は、全部頭の中に残る。長い間色々な事が頭の中にいっぱい入っているんです。どんどんどんどん。それで、何かあるたびに、物を見るたびに面白いと思って調べるから頭の中に入るんです。話聞いただけでは入らないですよ。お茶盃という物があって、これは織部という物でという話だけ聞いたってね。だから織部の茶盃を見て、まずこっちが何やろう思ってから頭に入れたらこれは抜けないんです。それをいっぱい入れてある時整理するわけ。ビシッと並べ直すんです。そしたら取り出す時にすっと出てくる。そういうやり方や（笑）

**（当時の機関学校のやり方が染みついているんですね。凄いいことですね）**

そんな話を時々人にするんですよ。そしたら、そんな事出来ません。と言われますよ（笑）  
こちらから入って、こちらに抜けるんですって。でも、それは間違いです。こちらから入って跳ね返ってるだけや。と（笑）また人の話聞いたらね必ず裏付けするように調べるんです。私は良い教育を受けたと思います。それで、昭和20年8月15日の終戦になった時、卒業目前3年生やったんです。それでおまけで卒業させると卒業証書をくれたんです。そのお陰で、文部省が帝国大学、東大・京大・九大・東北大・北海道大という帝国とついた大学へ無試験で入ってください。と。昭和21年の春。私の学校にいた者は試験なし。それだけごつつい勉強しとった事を知とったんです。それで皆入ったんです。姫路で東大に入って教授になった人が、海軍から来た人には敵わなかったと言っていました。何もかも先に勉強してしまっていると。たった2年4カ月で東大の工学部を出たのに匹敵するぐらい勉強させとったんです。それで、大学の学長総長になったのが5人、松下電器・日立の研究所の所長になったのも私のクラス。理学博士、工学博士になったのが38人。大学の教授、名誉教授もざら、それで私のクラスだけあだ名『偉い人クラス』とね（笑）同窓会で「何期ですか？」  
「機関学校56期です。」「あー偉い人クラスですね」と（笑）

私も京大に行こうと思って願書を出したんです。ところが家に祖母、戦争未亡人の姉、姉の子、妹と弟、全員が扶養家族です。そこへ私が海軍を辞めて帰ってきたんです。両親は戦争中に亡くなっていました。家も焼けてしまって焼け跡だけ。だから、何かせなしたら家族を養っていけない。それで、願書を出してそれっきり行かず。行つとったら、今の商売はしてないでしょうね。時々京大行つとったら良かったなと思うこともありますよ。

**（小林副会長がお茶を始められたのは？）**

戦争だからね。食べるために商売を始めたらお茶に関係がある、お茶の勉強もしてないといけないなと思いお茶の先生のところへ行きました。良い先生でね、色々なことを教えてくれました。先生がちょっと何か言ったら、家に帰って調べる。次に稽古に行った時に「この前先生こういうお話でしたけれど、本で調べたらこうでしたよ」と言うわけですよ。先生もやりにくかったと思います（笑）片っ端から勉強して、30歳の頃には相当な知識が頭に入っていました。独学でね。

**（姫路の茶道の歴史についても調べられたんですか？）**

姫路の茶道の歴史を調べようと、図書館に行って色んな本を見ても何もない。一冊もないんです。これは自分でしよう！と、とことんしたんです。そして本を出したんです。丸めてゴミ箱にほかされんように、全部硬いカチカチ表紙で（笑）柔らかかったら捨てられてしまうからね（笑）でも評判が良く、東大の図書館も、京大の図書館も、国会の図書館も置いてある。同窓会のおかげや（笑）東大や京大の教授をしていた人が、「小林君、なかなかこれは普通の人では出せない本やね。偉い事やね」と言いましたわ。

姫路に最初に茶道に関わっているのは豊臣秀吉やからね。記録も残っています。天王寺屋会記に。3つ程残っとるんです。豊臣秀吉の会記がね。あとは榊原家や、酒井家がお茶に凝っていたのでたくさん書いてありますね。

**（双樹庵に展示してある播磨釜について教えてください。）**

朝鮮の百済が新羅に滅ぼされた時に皇太子殿下以下4万人が日本に移住してきたんです。それは、日本で豊かに暮らしたいと思って来たんです。（製造技術を）教えようと思ってではないんです。ところが、その時日本は後進国で、医者や薬屋もない。そういう技術者のいない国に4万人が来たんです。まだ、関東地方が荒れたままだったので、そこへ行って下さいと。また、この辺へもたくさん来たんです。関東地方に行った者の中にも鑄物の技術者がいて、それが続いとるんです。天明という名前がね。姫路に来た中にも鑄物の技術者がいたんです。それが千種で成功したんです。木を切って炭を作って、炭を積み上げて、それに砂鉄を炭の上からかけて、ゴウゴウと燃やしたら下に鉄の塊が出来るという作り方です。それが、姫路でやとったやり方も、関東地方でやとったやり方もまったく一緒なんです。でも、みんなそれが理解出来ひんねん。だから、姫路で出来た釜を、鑑定士の方が関東地方の釜と鑑定してもた。その間違いです。

**（そうなんです。だからこれまでこの辺りで釜が作られてたという話を聞かなかったんです。）**

そうです。名前が載らなかったんです。ところが、黒田官兵衛が、姫路で釜を作らせて、岩国（山口県）の吉川家に進呈し、吉川家では、官兵衛に貰った釜ということで、ありがたいと思い如水釜という名前を付けたんです。それが今も残っているんです。そして、県立博物館に来たんです。姫路で出来たのが分かっているんです。官兵衛が姫路で釜が作れるのに、他所で作らせるはずがないですから。それが一つのきっかけなんです。もう一つは築城釜です。高砂市の方の家にその釜があったんですが、茶道をしないので高砂市に寄贈されたんです。高砂市はそうですかとそのまま放置していたんです。それを怒って寄付した釜を取り戻して、姫路市に寄贈して下さったんです。それから、姫路市の文化財の方が2人で東京の国立博物館に持って行かれたんやね。ですが、鑑定士の方が箱に古天明と書かれていたのを見て、東京国立博物館の方は、「こんな古天明はありません。偽物です。」と。そりゃそうやね。古天明ではないんやから。姫路で出来とんやからね。

そう言われて、2人でしょげて帰ってきたそうです。私はその経緯を全部知っているんです。私も文化財に関係していましたからね。それで、どうなったんかと聞くと、あれはダメでし

たと。ダメでしたじゃない、良いものに決まっている、私は昔から知っていますから。誰がどう言おうと良いものだと言ったんやけどね、東京国立博物館が言った方を信じますよね。それで20年ほど倉庫にしまわれてたんです。それで、その経緯を石見市長に話したんです。良い秀吉ゆかりの姫路で出来た釜があるのにね、それを東京に持って行って偽物と言われて倉庫にしまったままだと。それで好古園に寄贈して展示することになったんです。

**(姫路の歴史が変わる訳ですから、姫路にとっては大事ですよ。)**

そうですよ。将来は重要文化財になると思いますよ。年号が入っているでしょ、秀吉の紋が入っているでしょ、経緯がはっきりしているでしょ。秀吉が最初の天守閣を作った。黒田官兵衛の屋敷があったのを潰して、何も無い姫山の野原に作ったんです。大工さんや左官屋さんや、その他の職人がご飯を食べるのにお湯を沸かすでしょ。生活せんなんですよ。その為に1つや2つの釜では足りない、50個ぐらい用意しないとイケないわけです。黒田官兵衛が普請奉行、造らせたのは秀吉。そういう状態でお湯を沸かす釜を作ろうと。官兵衛は、無地だったら職人が持って帰ってしまうかもしれないから豊臣秀吉の家紋を入れたんです。もし、持って帰って、家に豊臣秀吉の紋が入っているのが分かたら首はねられますよ。だから、ビビってしまうようにしたんです。私は実物を3個見えています。それで播磨釜にこだわったんです。

**(これからの双樹庵に期待することはありますか?)**

西洋の方は、日本文化に馴染みたいと思って来ている感じですね。だから正座しています。胡坐かいてくださいと言っても断られます。この前聞いたらイギリス人の40歳ぐらいの男の人でした。日本文化を体験するためにですよ。茶室を利用されるのは西洋の方多いです。ただね、オープン当初からですが、姫路の方が来られない。ほとんどない。私が行った時はどちらからですか?と聞くんです。日本人の方にも。姫路ですという人はほとんどいません。たまに、お茶を裏で点てている人の友達とかはありますけどね(笑)名古屋から来たとか、東京から来たとかね。もちろん良い事なんですけどね。

みんなが、日本一の茶庭・茶室という認識が少ない。一木一草、裏千家でしているという例がないという事をもっとみんなが思った方が良いんだと思います。市民の方も、好古園で働いている方も、お茶の点てだしをしている方も思わないとイケないと思います。地方に出来たお茶室としては、庭も建物も日本一です。無いものは、歴史がない(笑)こんなに端から端まで考えて建ててあるところはないです。これ以上は考えようがないぐらいに。だからそれを分かって、日本一とみんなが思わないとあかんのです。日本一ということは世界一です。そこで日本文化を体験してもらいたいです。

**(茶道以外にも武道もされているとお聞きしましたが?)**

茶道の付き合い、自衛隊の付き合い、文化財の研究、武道としています。武道は会長もしているんです。年に3回書写と姫路神社と総社と奉納をするんです。自衛隊は感謝状をたくさんもらいましたよ。私、自衛隊の銃剣術の槍の先生なんです。自衛隊には格闘術が3種類あるんです。銃剣格闘、短剣格闘、徒手格闘です。そのうちの、銃剣が8段、短剣が8段。小

学校4年生の時、医者先生がこの子下痢ばかりするけれど、生まれつきだからどうしようもないと。それを聞いて父が剣道でもさせないと思ひ道具を買ってきて、無理やりに武徳殿に連れていかれたんです。でも行きだして、やりだしたら止まらない性分やからね一生懸命になって、県立商業学校に入ったんです。それで剣道部に入りました。みんな中学校から始めるけれど、私は小学校からしてたので、選手に選ばれて兵庫県で一番になったこともあるんです。剣道のおかげで下痢も知らない間に治ってたわ。父が剣道をしろと言ったおかげやね（笑）武道と一生の縁が出来た元ですね。剣道して、居合して、槍、棒術、その次に軍隊が盛んになってきたので銃剣術、短剣術。のめりこんでしまいました。

**（過去のアルバムを見せて頂いた際、色んな著名人と映られていましたね。）**

市長が偉い人が来る際に案内してくれと言ってくれるんです。三笠宮様、司馬遼太郎さん、女優の淡島千景さんなど。司馬遼太郎さんとも1時間半程話をしたけどね。三笠宮様が昨年亡くなられた時に姫路市が、私が良く話たのではないかと情報を得たので新聞にたくさん載りました。三笠宮様に初めてお会いしたのは、文学館の植樹に来られた時です。その際、お茶を点てて欲しいと頼まれたんです。ついでに文学館の中を案内してあげてほしいと言われてね。すると、三笠宮様とよく話が合ってたね。三笠宮様はオリエント学（中近東）専門で、私は何でも知ってるわけです。すると、帰りに、三笠宮様が、「小林さん、今度トルコへまいりますがお一緒にいかがですか？」と。「喜んでついて行かせて頂きます。」と1週間ほど行ったんです。アナトリア高原に出光興産が発掘調査を行うのに寄付をしたんです。6000年の複合遺跡いうてね、何百年前から6000年前までの1つの山。色んなものが出てくるんです。それを調査するのに、50年はかかると。そうすると、日本人が長逗留せなあかん。退屈する。すると、その山に桜の木や紅葉を植えて、滝も作ってプールも作って退屈せんよう出光がしたんです。そのお金を三笠宮様が出光の代わりにお届けするという用事で行かれたのに着いて行ったんです。国賓や（笑）

ちょっと普通の人と変わった人生でしょ（笑）

**（姫路に貢献された凄い人生だと思います！）**

### ※別室、武道具がたくさん置いてある部屋に移動

これが、戦争中に被った帽子と短剣。ずっと大事にしとるんです。

泥棒でも入ってきたら、やっつけようと思って待っているんやけど、入って来ないです（笑）

【職員が短棒を支えてそこに凄い勢いで打ち込む】これが短棒術です。杖をついたおじいさんに誰も用心しないでしょ。そういう事をしているんです。

【委嘱状を見て】

これ、委嘱状。銃剣道8段、短剣道8段、姫路駐屯地銃剣道、短剣道の講師を委嘱します。自衛隊の講師です。凄い事ですよ。

【海軍服を着た写真が入った額を見ながら】



これは海上自衛隊の艦長になってくれと言われたんです。1日艦長。1日艦長になるのに、わざわざ辞令が来て、服を前日に持って来られてね。靴だけ自分の靴。飾磨港に船が入ってたんですが、邪魔臭いと二階町からこの服装で行きました。近所の方が昔海軍だったのを知ってらしたので「えーまた行ってんですか」と言われました。だから偽物じゃないですよ（笑）

### ※別室、茶室に移動

茶室というものは、絶対余計な物を置かない。何にもない。お茶の掛物を掛けて、花を活けるだけ。

この掛け軸は鵬雲斎です。『残月一聲鶉』（ざんげついつせいのほととぎす）ですね。

#### 【お庭を眺めながら】

こういう所を露地と言うんです。心を露わにする為の通り道という意味です。ここを歩いてくる間に俗世間の事を忘れる、自然の事、茶の事しか思わないそれで露わの地と書くんです。路地裏の路地とは違いますよ。それと、蹲（つくばい）で手を洗い口をすすぐのは汚いから洗うのではなく、清めるという事です。

#### 【『一』という字が目立つ掛物を見て】

これは『一以貫之』（いちをもつてこれをつらぬく）という論語に出てくるんですよ。鵬雲斎の先代の淡々斎ですね。私が一夫という名前だからこれを掛けているんです。

#### 【庭の灯籠のついた植物を見ながら】

これ凄いでしょ。石に草が生えるなんて事考えられないでしょ。置いてあるんじゃなく、生えているんですよ。ノキシノブと言って軒先の乾燥した所に生える草です。たまたま、何かのはずみでここについたんでしょうね。これは育てないといけないと思水あげているんです。

好古園が出来までの秘話や姫路の歴史に関わる事等、色々なお話を聞かせて頂きました。日課とされている調べ物の本を読まれている姿や、短棒術を披露して下さった姿は、とても凛々しく92歳には見えませんでした。お抹茶を飲まれているのも若さの秘訣かもしれませんね。私も日本一のお茶室でお抹茶を頂きたくなりました。貴重なお話を聞かせて頂きありがとうございました。